ク、スウェーデン、日本）のなかでも中位だが、「建設業」「医療・福祉」は最低水準となっている。

介護産業においても、きちんと労働生産性を高めるやり方があるのではないか、必ずしも規模のメリットの追及ばかりではないという事例を実践している事業者を見つけた。

時間当たりの生産性を上げるために、いっさい残業はさせない・しない、という経営方針を貫き、きわめて生産性が高く、従業員の定着率も高い。

社会福祉事業であっても生産性向上

東名高速道路の横浜町田インターからほど近い町田街道の脇の少し奥まったところにある七階建ての建物は、長方形のマンションのような冷たい感じはなく、一階の軒先が大きく突き出て、パリの街路のカフェ風で、赤と白のストライプの庇（ひさし）（オーニングテント）が陽光を反射させて明るい。暖かい場所、という印象を醸しだしている。

広い一階があり、その上にやや幅の狭い二階、三階、四階があり、さらに直線的な感じの五階、六階、七階が屹立している。

一階には診療所（内科、心療内科、精神科）とレストラン、理美容室、浴室、デイサービスの広めの部屋があるほか、ヘルパーステーションと訪問看護ステーションがある。つねに見守りができる住宅型有料老人ホームが一〇室、配置されている。

二階は介護付き有料老人ホームで認知症の専用住居が二四室ある。三階と四階は介護付き有料老人ホーム、五八室。五階、六階、七階の三フロアは一室が五〇平方メートル以上のゆったりした居住空間で二三室、生活サポートシニア向け賃貸マンション、いわゆるサ高住となっている。

建物の設計が複層的であるように、サービス内容に応じてフロアが配置されていることがわかり、小さな街区のようなかたまりがつくられている。

オレンジ色の瓦の三角屋根のゲートを入ったところ、ホテルのロビーに似たフロアで、この介護施設を経営する森一成（社会福祉法人合掌苑）理事長と向き合った。ラグビー選手タイプの胸の厚い体型の森氏は、三十歳近くまでソフトウエア会社でプログラマーの仕事をしていたが、たまたま縁があってこの社会福祉法人へ入った。

社会福祉法人合掌苑は老人ホーム事業を開始してから五十九年、町田市周辺に特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、通所療育施設、在宅サービス、有料老人ホーム、高齢者ア